

現場紹介・工事進捗状況

② 放流管組立の様子



発電管運搬の様子

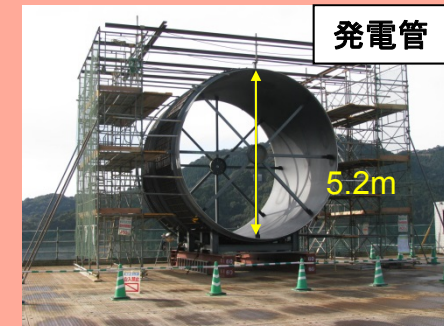
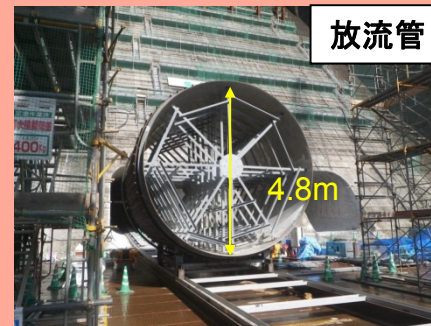


• 放流管（発電管）

この放流管（発電管）も仮締切やベルマウス等と同じように工場で造られトレーラーを使い、現地まで運ばれてきます。

分割して運ばれてきた放流管（発電管）をダム近くの組立ヤードで溶接し一つの管にします。

管の大きさは放流管が直径4.8m、発電管は直径5.2mあります。



現場紹介・工事進捗状況

② 発電管運搬

少し変わった管の運搬方法をご紹介します。
発電管は上流側のヤードで組立てられた後、船を使ってダム湖を渡り、天端のクレーンを使って下流側の構台まで運ばれます。



組立ヤードから
船にのせて



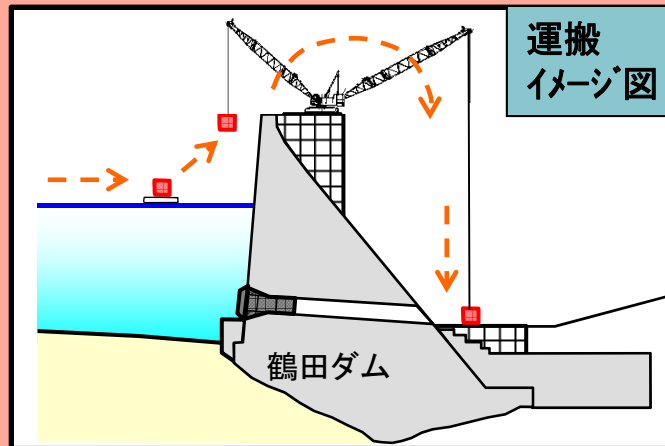
船で曳航



天端のクレーンで
持ち上げて



天端(上)へ



運搬
イメージ図



回転して



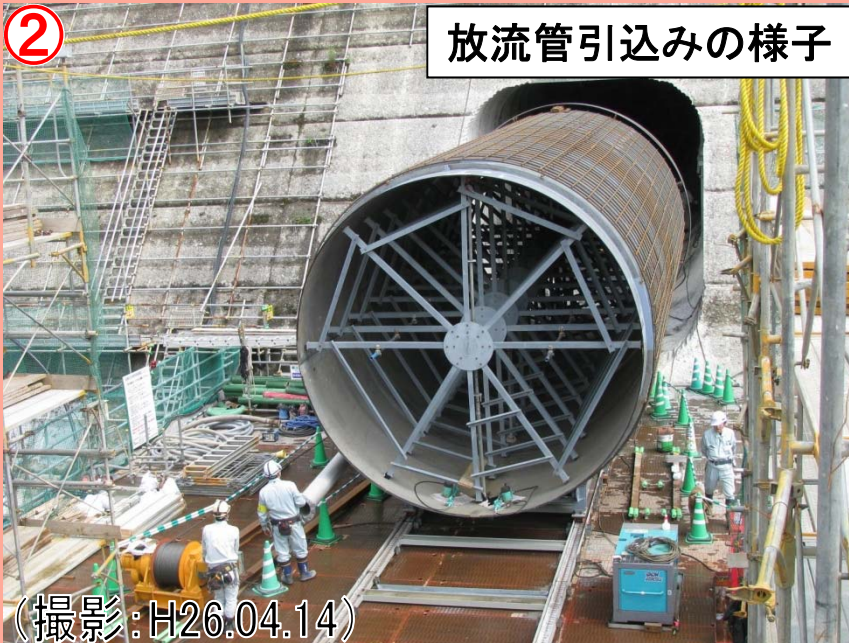
下ろす



下流の削孔用構台へ

②

放流管引込みの様子



(撮影:H26.04.14)

放流管(発電管)設置

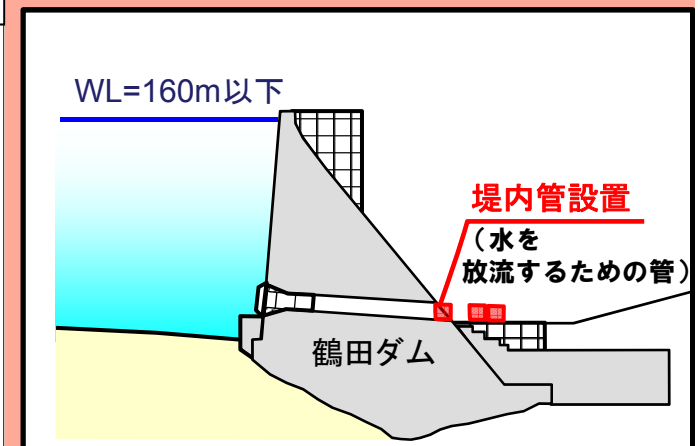
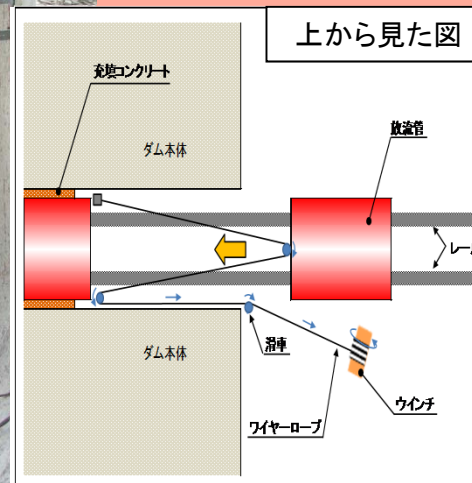
設置する際、予めトンネル内に引いておいたレールの上にした管をウインチという機械を使い、機械に付いているワイヤーを巻き上げる事で、管は後ろ(堤内)へ移動します。

設置後、ダムの中で溶接を行います。

放流管引込み後

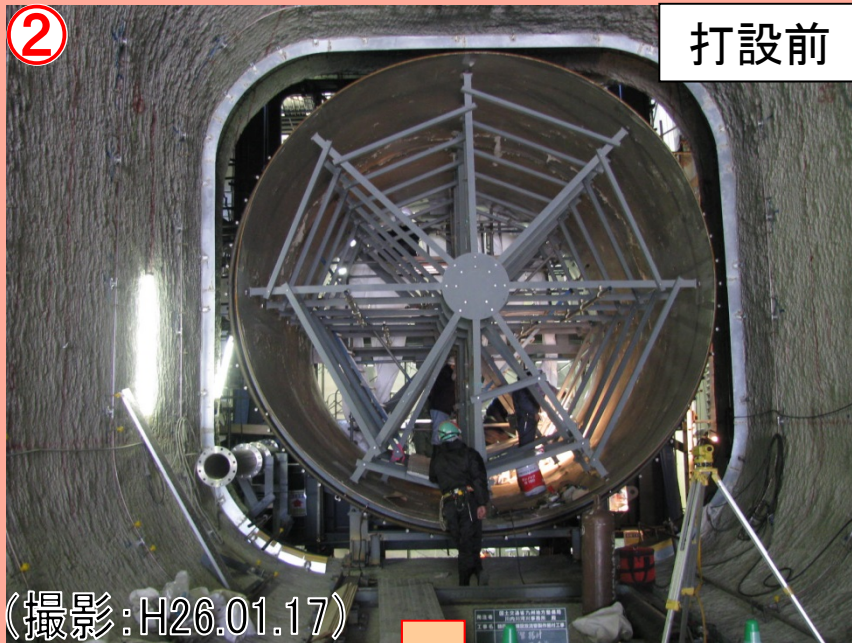


(撮影:H26.04.14)



②

打設前



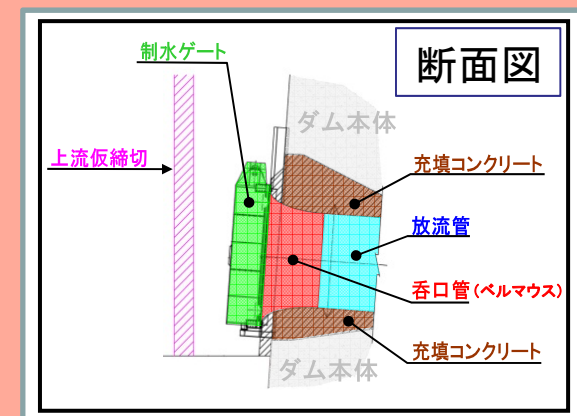
• 充填コンクリート

放流管を設置した後、ダム本体と放流管の間にコンクリートを充填する(隙間を塞ぐ)作業を行います。

この作業(放流管設置→充填コンクリート)を繰り返して、放流管をつくっていきます。



打設後



(撮影:H26.02.18)